

アガパンサス

東海教区 女性会
第20期 第3号
発行者 鈴木貴美子
編集 牧 摂
印刷 名古屋めぐみ教会



主 題 「キリストが望んでおられる」 一生かされる喜びと祈り一

主題聖句 キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。
古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。

(第2コリント5章17節)

巻頭言



新霊山教会 牧師

後藤由起

昨年の今頃、ミネソタの神学校に留学中の私は、エチオピア人留学生ロデとアパートをシェアして住んでいた。

ある日、ロデはひどく興奮して帰ってきた。朝の授業に行く前に、コーヒーショップでコーヒーを買うために並んでいて、列が長かったのでふと空いている席に腰掛けたい。すると、ひとりの老人がやってきて、「ここは白人の席だ」と大声で怒鳴りだしたそうだ。周りにいる人たちはあっけにとられて呆然とこの出来事を見つめていた。誰も声をかけてくれる人はいなかった。次にその老人は強い口調で、「お前はどこから来た、アフリカか？ムスリムか？」と、いろいろと質問をしてきたらしい。その質問の中にはあてはまるものもあったけれど、彼女はすべて「No」と答えた。

最後に老人は、「じゃあ、何なんだ？」と聞いた。

そこで彼女は、「私はロデ。You don't need to know the rest! (それ以外の説明は必要ない)」と言り返した。

その後、この出来事はしかるべき対処がされたそうだが、私がびっくりしたのは、これが50年前ではなくて、今、起こった出来事だということだった。クリスマスシーズンでキラキラしている街の中で、根深い人間の罪の現実を見た気がした。

このロデ、牧師をしているお父さんが付けてくれた名前だそうだ。使徒言行録12章に出てくる、そそっかしいロデからとった。天使によって牢から救い出されたペテロが門の前に立っている声を聞き、喜びのあまり門を開けもしないで家に駆け込み、人々に告げ知らせる。実はロデは、使徒言行録の中で最初に口を開くクリスチャン女性だといわれている。人々が疑っても、気が変になっているといわれても、彼女はペテロが生きていると言い張る。確信があるからだ。

聖書の中で、彼女は決して有名な存在ではない。しかしその後も、たくさんの目立たないロデたちが、時にはちょっと失敗し、時には涙を流しながらも、教会を支え続けてきた。「〇〇の」という修飾語のない、「ロデ」を神様が愛してくださっていると知っているから。

女性会連盟の課題と「小委員会」について

鈴木貴美子

冬咲きのパンジーの花が開く季節になりました。通りに面している私の教会の花壇のパンジーの苗達は道行く人々をやさしく教会に導いてくれているように見えます。

連盟の合同役員会で決められた少委員会制のことについて、女性会の集いで皆様にご説明いたしましたが、ここでもう一度お話しさせていただきます。

連盟の働きのなかにはいくつかの問題や見直しを必要とされるところがあります。そのような課題が時間も限られた総会で提案され、審議して決めるのはたいへん難しい面があります。その結果、課題は保留されたり引き継がれたりして結論が先延ばしになってしまいます。

そこで、女性会連盟で抱えている諸課題について、連盟役員等のみで検討するのではなく、時間をかけて連盟役員以外の方、具体的には各教区でも考えていただくために、各課題についてそれぞれ小委員会をつくり、そこで検討した内容を連盟に提案するかたちにしたと言えます。

課題は「次期総・大会の開催方法」「連盟役員の選出方法」「サバ神学生の支援」「TNGのサポート」の4つです。そのうちの「連盟役員の選出方法」が東海教区に割り当てられました。この東海の小委員会のメンバーは有志の方のご意見等も聞きながら、教区役員を主体に動いていこうと考えているところです。

そして、小委員会での検討と並行して、東海教区女性会の皆様にこの課題についてのご意見をいただきたくアンケートをお願いした次第です。

なぜ今「連盟役員の選出方法」なのかです。各教区から推薦された4名の方々から選挙により会長を選び、他の3名の互選で副会長、会計、書記、広報を担うこととなります。この方法について見直す必要があるのではということが課題として取り上げられたわけです。連盟の総・大会に出席された方であれば、あの場での役員選挙の方法について何か感じるところがあるのではないのでしょうか。

22女性会からのアンケートのご返事は、「現在の方法でよい；12」「方法を変える；3」「わからない；5」「回答なし；2」でした。このことに関するコメントもたくさんいただきました。また併せて連盟そのものに対するコメントもありました。

これからも折を見て、皆さんからのご意見をお聞きしたいと思います。皆さんもどうか、もし御自分が連盟役員になるとしたら、どんなかたちで選らばれたらいいか、御自分のこととして考えていただき、祈りの中に覚えていただけたらと思います。

連盟役員研修会



今年も秋の女性会に参加させていただきありがとうございました。

女性会に参加させていただき、いつも思うことがあります。それは、教会の女性たちはいつもエネルギーで生き生きと働きをされていることです。

恵み多き女性会の交わりに感謝いたします。

今年の福地英子姉のミニコンサートと徳善先生とのコラボは、掃宅の道の中でも暖かい余韻を心に残してくれました。

これからも続く教会の女性会に、日々新たな希望へと導いてくださったような気がします。役員の方々のお働きに心より感謝申し上げます。

(新霊山教会 中川 和子)



2013年10月12日(土) 栄光教会藤枝礼拝堂で徳善先生をお招きして「女性会の集い」が行われました。90名の参加者でした。参加して下さった方に感想をお願いしました。



(岐阜教会 藤末 理子)

2013年10月12日(土) 栄光教会藤枝礼拝所で女性会の集いが開催されました。90名という多くの参加者が与えられました。

開会礼拝は、後藤由起牧師による「恐れるな、語り続けよ」とパウロの力強い言葉のお説教に始まり、徳善義和先生【ただひとつのこと、ルターと現代の私たち】というテーマでお話を聴きました。とてもわかりやすく、そして身近に神様の【ことば】が感じられました。

お話の途中先生からサプライズがありました。それは、Luther bonbon, 31.Oktoberist Reformation stang! と書かれた紙に包まれた餡が配られました。その餡のお陰で休みがちな私の脳も元気を回復し、その後のお話は、しっかりと心と頭に納める事ができました。

午後は、「福地英子姉のミニコンサート&徳善先生とのコラボ、ルター讃美歌を歌おう」では、星野富弘作詞の歌と美しい声に魅了されとても癒されました。ルターがなぜ賛美歌をつくったかの意義も知りまし。そして楽しく賛美歌を歌いました。

閉会礼拝は、内藤文子牧師の「成長に導く神」というお説教で終わり一日有意義な時を多くの方と過ごした女性会の集いでした。

(小鹿教会 鈴木 暁美)



「女性会の集い」に、沼津教会より3姉妹が、水を得た魚のようにいそいそと、浮き立つ思いで参加したのは、女性会での時を重ねた、友愛と信頼による絆の面々に、再び出会える喜びを内に秘めていたからです。

ルターの祈りの讃美歌&歌姫を交えてのミニコンサートでは、徳善先生からのドイツの宗教改革記念キャンディを手にした途端、それまでの隣人との隔たりが一瞬にして取り払われ、笑みがこぼれ、融和に導かれたことも皆様も体感したことでしょう。

「女性会の集い」を禅語の言葉に例えるならば、「白馬、雪に似たり」の一行がふさわしいかと思います。白い馬は教区の役員、雪原は会員で、白い馬と雪はともに純潔で見分けがつかないことから、差別がない融和の情景であると解釈しています。

役員の皆様が、仕えるように支えている様相に頭が下がりました。先生の講義における業に感謝し、至福の時に身を委ねて拝聴できたことを感謝します。今後、連綿として継承されていく女性会に、多くの女性が集い、信仰の絆を培うことができますようお祈り申し上げます。

(沼津教会 一杉 静子)

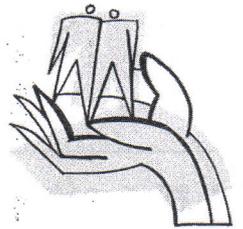
女性会の集い・挙母教会

教区女性会の集いが4月12日(土)、60有余名の参加者をお迎えして挙母教会で開催されました。交通の便のこともあり、心配しながら当日を迎えましたが、礼拝で会堂いっぱい響く賛美の声に「主がご一緒」の感を強くしました。

午後からは、「つるし雛」の優しさに包まれて復興支援ソング♪花は咲く♪を全員で合唱しました。その後、オンリーワンの中本理事長のお話を聴き、柿本町の事業所を見学する、という充実したプログラムでした。企画された役員各位と参加された姉妹方に感謝の一日でした。
(挙母教会 梅村亜恵)

牧師先生を含めて68名が集い、午前中は礼拝とグループに分かれての課題の話し合い、午後からは授産施設「オンリーワン」の中本施設長のお話と、施設見学というプログラムでした。

女性会の課題については、これからも気長に一人ひとりが考え、話し合い、少しずつ修正していく必要を感じました。午後訪問した「オンリーワン」ではプロのパティシエが指導して作っている、とっても美味しい名物クッキーの「お菓子工房グレース」や昔ながらの手動織り機を使ったさおり織り広場「織りいふ」を見学し、今後の支援の在り方なども考えさせられる有意義な一日となりました。
(なごや希望教会 真木雅子)





活動報告



— 福祉村の夏祭り —

7月20日に“ディアコニア”からのお誘いで夏祭りのボランティアとして参加し、皆様から献品していただいた品物を販売しました。役員と共に3名の女性会の姉妹にご協力していただきました。地域の方や入居者のご家族の方が楽しく語り合っている姿が印象に残りました。

売上は26,270円でした。全額を東海教区福祉村委員会に献金させていただきました。福祉村が職員、ボランティアの方々によってしっかり支えられていることを感じました。(牧 撰)



— 東日本大震災(復興ツアー)現地見学会 —

“となりびと”“女性会連盟”主催の現地見学会(11月8日~9日)に参加しました。九州地区2名と東海地区4名で、野口牧師が案内して下さいました。

1日目は、仙台から気仙沼まで120kmにある前浜地区のコミュニティセンターを見学、新しく建てられ木の香りのする落ち着いた所でした。ここのモットーは、“めんどくさいを楽しもう”だそうです。

2日目は、“つるし雛”を作っていた追波川河川団地集会所に伺いました。用意して下さいましたお昼を頂きながら、被災した時の事、今不便を感じている事などのお話を伺いました。

そして、多くの子供たちが犠牲になった石巻の大川小学校へ行きました。田舎にしてはモダンな造りの校舎はヒビ割れて無残な姿でした。こんなに山が近いのになぜなぜという思いがしました。

野口牧師の説明を聞きながら、こんなにも多く“となりびと”の働きがあったのかと驚きました。これからも、皆様と一緒に支援を続けたいと思います。(大瀧 清子)

— 「まきばの家」と「子どもの家」の収穫感謝祭 —

女性会もご招待を頂き、11月9日に出かけてまいりました。少し肌寒い陽気でしたが、広い牧場を会場として行われました。子どもたちの借り物競争、ゲーム、ソーラン節が行われ、子どもたちは元気いっぱい走りました。子牛を連れて来たり、干し草を運んで来たりと牧場ならではの内容に歓声が上がりました。

前日から、職員と子どもたちで作ったたくさんの美味しいお食事も御馳走になりました。自然の中で牧場の仕事や農作業をしながら、大地に根付いた子ども達、職員の生活の様子を知ることができ本当に感謝でした。(寺島文世)

— 「まきばの家」の児童達へクリスマス・プレゼント —

皆さんに協力いただいた手提げ袋に手作りのクッキーなどのプレゼントを入れて、12月23日に訪問しました。子供達の元気な顔を見て、スタッフの方々の努力を感じ、神様のめぐみが豊かにありますよう祈りました。



今後の予定

女性会の
集い

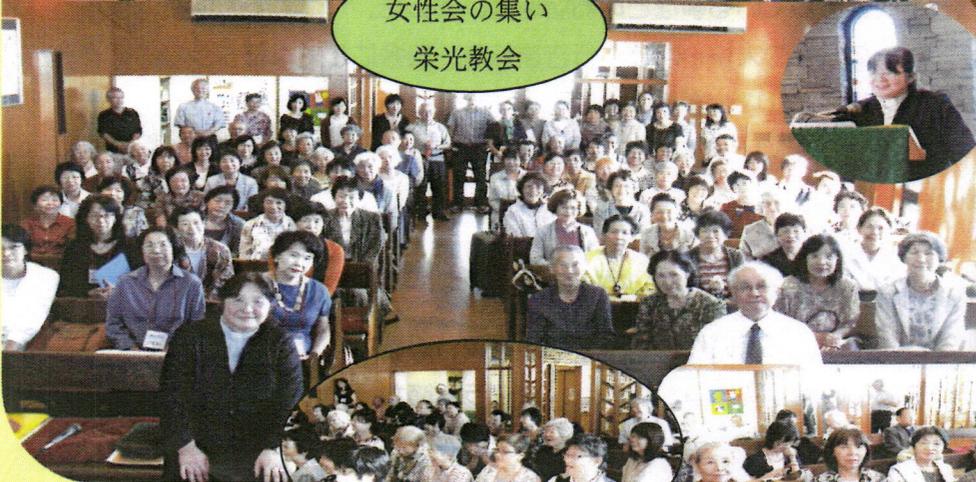
- ・日時 2014年4月26日(土)
- ・場所 未定(東静地区)
- ・午後からJELAキャル・サック宣教師による“ハーブ演奏”を計画しています。詳細は別途連絡します。



女性会の集い
挙母教会



女性会の集い
栄光教会



まきばの家
収穫感謝祭



被災地現地見学



◇編集後記

昨年タイミングを逃したアガパンサスの花を今回はなんとか撮ることができました。表紙の写真がそれです。色々な行事が重なりアガパンサスの発行が遅くなってしまいました。(S.M.)